

## 脳神経外科

### 《診療内容》

脳神経外科の診療は、疾患としては脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍、てんかんなどで、症候としては意識障害、片麻痺、めまい、けいれんなどが対象となります。

具体的には、t-PA 静注療法を含めた脳梗塞の急性期治療やリハビリテーション、脳出血の手術、破裂脳動脈瘤のクリッピングや血管内コイル塞栓術、頭部外傷の手術や管理、脳腫瘍の手術などです。

秋田大学付属病院と連携して、脳腫瘍などのエクスナイフ治療も可能です。

### 《手術件数》平成 20 年の手術総数は 70 件

脳動脈瘤クリッピング術	未破裂	2 例
	破裂	12 例
脳動脈瘤塞栓術	未破裂	5 例
	破裂	3 例
慢性硬膜下血腫ドレナージ術		20 例
脳腫瘍摘出術		3 例
頭蓋骨腫瘍摘出術		2 例
脳内血腫除去術		1 例
急性硬膜下血腫除去術		2 例
脳室ドレナージ・シャント手術		12 例
その他		8 例

### 《研修医のみなさんへ》

外来では、頭痛、めまい、しびれ、脱力などの診断や、脳卒中後遺症患者の二次予防（危険因子の管理や、抗血小板剤の投与など）を行います。これらは、脳神経外科医にいらなくても、日常的に経験し得る症候なので、脳神経外科を研修することで診療技術が上がることになります。

入院では、主に脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など）急性期患者の管理、頭部外傷（脳挫傷、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫など）の管理などを学びます。特に当院では、原則的に脳卒中は当科ですべて診療することになっており、1~2 カ月の短期間の研修で、脳卒中の種々の症例が経験できることになります。

救急外来においても役割は重要で、意識障害、片麻痺、けいれんなどの救急患者は、当科が初期診療を担当しており、十分な研修を積むことができます。